

エキサイゼリ *Apodicarpum ikenoi* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 17。関東地方と愛知県の固有種で、減少傾向の著しい低湿地性植物でもある。県内では生育地が極めて少なく、開発圧力も高い。

【形態】

小形の多年生草本。根は数個が肥厚する。茎は下部から枝を分け、高さ 30cm 内外になる。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身は単羽状複葉、小葉は 2~4 対で長卵形~卵形、長さ 1~3cm、幅 0.5~1.5cm、先端は鋭頭~鈍頭、無柄で辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 5 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 4~8 本、花時には長さ 1cm 以下であるが果時には 1~3cm のび、花は小さく、白色である。果実は楕円形で長さ 2~3mm、分果は無柄である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：49d 清須（芹沢 77359, 2001-5-21）、56a あま（芹沢 82886, 2008-5-30）。五条川下流部だけに知られており、区画としては 2 区画だが、実質的には 1 カ所である。橋本（2019）によれば春日井市で採集された標本もあるというが、生育地が本種の一般的な自生地の環境とはかなり違うようで、確認が必要である。

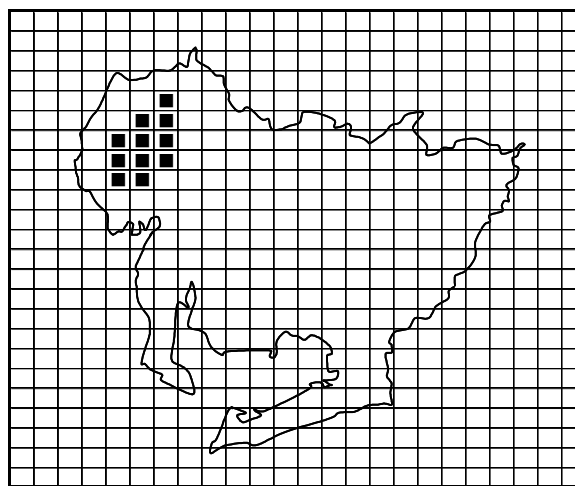
【国内の分布】

本州（関東地方および愛知県）。関東地方では、利根川水系にはまだ点在しているが、東京都や神奈川県ではすでに絶滅した。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷低湿地のヨシ群落の中やその周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

部分的には個体数の多い場所もあり、また高さ 50cm を越す大型の個体も見られるが、生育地は新川との合流点から上流に向かって約 1.5km の範囲に限られており、存続の基盤は極めて脆弱である。最下流部の集団は、清掃工場の建設とそれに関連する河川改修により消滅した。ただし、現在進行中の河川改修工事では最大限の配慮がされている。

【保全上の留意点】

目立たない植物であるが、愛知県の低湿地性植物の中で最も危機的で、また最も保全を要する種である。埋土種子集団を作る植物らしいので、生育環境を維持または創出すれば、個体群は存続すると思われる。

【特記事項】

日本固有の 1 属 1 種の植物である。和名は、本種を最初に描画した富山藩主・前田利保の号「益齋」に因む。

【引用文献】

橋本啓史. 2019. 農学部標本室から附属農場に移管した植物さく葉標本目録. 名城大学農学部学術報告(55):1-11.

【関連文献】

保草本 II p.14, 平草本 II p.287, 平新版 5 p.391, SOS 旧版 p.66+ 図版 27, SOS 新版 p.166.